

コメント

日本共産党東京都議会議員団が新たに入手したシンチレーション・スペクトロメーターによって、これまでの空間線量率（単位： $\mu\text{Sv/h}$ ）のデータとあわせて、おもな放射性核種の濃度（ Bq/kg ）もわかるようになりました。都民の安全・安心を守る上で、また有力な装備が増えたこととなります。

テスト地として選ばれた葛飾区の水元公園では、 $1\ \mu\text{Sv/h}$ 前後の汚染スポットの落葉、土壌から、1万～2万 Bq/kg 級の汚染があることが、今回たしかめられました。国が対応の基準としている 8000Bq/kg を大きく超えていて、早急な措置が望まれています。

原水爆実験の影響を除けば、東京は世界ではじめて人工放射線の被曝をこらむった首都だといえます。東部3区はもちろんのこと、東京都庁の周辺でも、事故前の空間線量率が事故後には約2～3倍に高まっているのです。避難に走らなければならないレベルではないにせよ、多くの人が行き交う都心部とあっては、無視して良い数字ではありません。放射線の、好ましくない影響を極力くいとめるために、行政当局を含めた諸機関の、一層の努力が求められてしかるべきだと考えます。

2012年2月21日

日本科学者会議

災害問題研究委員会

坂巻 幸雄